

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-291022

(43) 公開日 平成9年(1997)11月11日

(51) Int.Cl. ⁹	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 7/48 7/00			A 6 1 K 7/48 7/00	K D B C
審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 6 頁) 最終頁に続く				

(21) 出願番号 特願平8-131065

(22) 出願日 平成8年(1996)4月25日

(71) 出願人 000106324

サンスター株式会社

大阪府高槻市朝日町3番1号

(72) 発明者 中田 功二

大阪府高槻市津之江町3-46-7

(72) 発明者 苗代 英一

大阪府大東市南楠の里町6-15

(54) 【発明の名称】 皮膚収斂化粧料

(57) 【要約】

【課題】 収斂効果に優れ、その効果が持続する皮膚収斂化粧料の提供。

【解決手段】 カバノキ科カバノキ属植物の樹液とアラントインクロルヒドロキシシルアルミニウム、アルミニウムヒドロキシクロライド、塩化亜鉛、塩化アルミニウム、塩化第二鉄、カラミン、乾燥硫酸アルミニウムカリウム、パラフェニルスルホン酸亜鉛から選ばれる1種以上を配合する消炎性皮膚化粧料

【特許請求の範囲】

【請求項1】 カバノキ科カバノキ属に属する植物の樹液、及びアラントインクロルヒドロキシアルミニウム、アルミニウムヒドロキシクロライド、塩化亜鉛、塩化アルミニウム、塩化第二鉄、カラミン、乾燥硫酸アルミニウムカリウムおよびパラフェニルスルホン酸亜鉛より選ばれた少なくとも1種以上を配合することを特徴とする皮膚収斂化粧料。

【請求項2】 カバノキ属に属する植物がシラカンバ (*Betula platyphylla* var. *japonica*) である請求項1記載の皮膚収斂化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はシラカンバ樹液および収斂剤を配合し、皮膚に対する収斂効果の高い皮膚収斂化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】 皮膚は、外界からの物理的、化学的刺激より人体を保護する機能を有する。このため皮膚は適度に収斂していることが必要である。従来、このような収斂剤として各種成分が用いられているが、何れの薬剤も一時的な収斂効果は有するものの持続性に乏しく、使用後短時間のうちに汗や皮脂が分泌され、十分な収斂効果は得られていない。また、肌の収斂作用は、皮膚に適度な引き締め感やハリをもたせる効果もあるが、これについても十分な効果が得られていない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 そこで、本発明は従来の皮膚収斂化粧料に比べ、その効果の持続性に優れた収斂化粧料の開発を目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明者らは、優れた収斂効果を有する化粧料を得るべく鋭意検討を重ねた結果、昔から民間療法的に欧州、中国、韓国、日本などで、便秘、扁桃腺炎、咳・喉痛、発熱、リウマチ、火傷炎症、高血圧、利尿、痲風などに用いられているカバノキ科カバノキ属に属する植物の樹液が有効であることを見出すとともに、それら樹液に収斂剤を組み合わせることにより、比較的長期にわたって強い収斂効果が得られ、汗や皮脂の優れた分泌抑制効果が得られるとともに肌を引き締め、ハリのある肌を得られることを見出し本発明を完成した。

【0005】 すなわち本発明は、カバノキ科カバノキ属に属する植物の樹液及びアラントインクロルヒドロキシアルミニウム、アルミニウムヒドロキシクロライド、塩化亜鉛、塩化アルミニウム、塩化第二鉄、カラミン、乾燥硫酸アルミニウムカリウムおよびパラフェニルスルホン酸亜鉛より選ばれた少なくとも1種の成分とを配合した化粧料を提供するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】 本発明で用いるカバノキ科カバノキ属に属する植物の樹液は、シラカンバ、ダケカンバ、ヤエガワカンバ、ヤチカンバなどから採取され、特に、本州中部以北と北海道、千島列島南部、サハリンなどに分布するシラカンバ (*Betula platyphylla* var. *japonica*) が好ましい。これら樹液は、幹に小さな穴を穿けることによって採取することができ、その時期は早春が好適である。この抽出される樹液は約99.3%が水分であり、残部が固形分量である。糖成分としてグルコース、フラクトース、ミネラル成分としてカリウム、ナトリウム、カルシウム、マグネシウム、マンガン、鉄、亜鉛などを含み、その他アミノ酸や有機酸、蛋白質などを含有している。

【0007】 採取したシラカンバ樹液はそのまま放置すると、腐敗、菌の繁殖などが生ずる。このため採取したシラカンバ樹液にエタノール、パラオキシ安息香酸エステルまたはその塩、安息香酸またはその塩、サリチル酸またはその塩、ソルビン酸またはその塩、デヒドロ酢酸またはその塩、イソプロピルメチルフェノール、オルトフェニルフェノール、クレゾール、フェノキシエタノールなどの防腐剤を適宜添加することが望ましい。

【0008】 また、シラカンバ樹液の配合量は、化粧料全量中の3~98重量%、好ましくは、5~95重量%、さらに好ましくは10~90重量%である。シラカンバ樹液の配合量が3%より少ないと、十分な収斂効果が得られず、一方98%を超えると防腐剤、安定剤、保存剤の配合が制限され、シラカンバ樹液の保存安定性が低下し好ましくない。

【0009】 本発明の化粧料においてシラカンバ樹液と共に用いる成分は、アラントインクロルヒドロキシアルミニウム、アルミニウムヒドロキシクロライド、塩化亜鉛、塩化アルミニウム、塩化第二鉄、カラミン、乾燥硫酸アルミニウムカリウムおよびパラフェニルスルホン酸亜鉛であり、単独または2種以上配合してもよい。これらの成分の配合量は、化粧料全量に対して0.01~5重量%、好ましくは0.05~2重量%である。配合量がこれより少ないと持続性のある十分な収斂効果が得られず、また上限を超えると刺激を生ずる。

【0010】 本発明の化粧料は、公知の方法によりクリーム、乳液、化粧水、パック、ファンデーション、エッセンス、制汗剤などに調製され、その種類に応じ性能を損なわない範囲において、適宜公知の成分を配合することができる。すなわち、本発明の化粧料には上記必須成分の他に、通常化粧料に用いられ配合される成分、例えば、油分、紫外線吸収剤、酸化防止剤、界面活性剤、防腐剤、香料、水、アルコール、増粘剤、色素等を必要に応じて適宜配合することができる。

【0011】

【実施例】 次に、実施例をあげ、本発明をさらに詳しく

説明する。言うまでもなく、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。また、特に断らない限り[%]は重量%を表す。つぎに本発明化粧料の効果について試験した。表1、表2及び表3に示す、実施例(及び比較例)を常法により調製し、評価した。評価方法を示す。

【0012】1. 皮脂分泌抑制試験

前腕内側部を洗浄後、実施例1～4及び比較例1～5を塗布した。1時間後に四酸化オスミウム含浸紙を前腕塗布部に貼付し、5分経過後の黒化度により脂肪の分泌量*

※を比較した。皮脂分泌量は下記の基準に基づいて評価した。

<評価基準>

- : 試験紙が黒くならない。
- ±: 試験紙が僅かに黒くなった。
- +: 試験紙が明瞭に黒くなった。
- ++: 試験紙が著しく黒くなった。

【0013】

【表1】

	実施例 (%)				比較例 (%)				
	1	2	3	4	1	2	3	4	5
精製水	39.0	39.0	39.0	39.0	99.0	99.0	99.0	99.0	30.0
シラカンパ樹液	50.0	60.0	60.0	60.0	-	-	-	-	70.0
塩化亜鉛	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-
塩化アルミニウム	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-
塩化第二鉄	-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-
p-フェノールスルホン酸亜鉛	-	-	-	1.0	-	-	-	1.0	-
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
黒化度	-	-	-	-	±	±	±	±	+

【0014】2. 肌の引き締め効果の測定

表2に示す、実施例5及び比較例6～8を調製して、35名の女性に実使用させ、3段階で評価させた。表2に示すように、実施例は比較例に比べて長時間にわたり引※30

※き締め効果が認められた。

【0015】

【表2】

	実施例	比較例 (%)			
		5	6	7	8
POE40硬化ヒマシ油	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
プロピレングリコール	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
クエン酸	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
エタノール	12.0	12.0	12.0	12.0	12.0
香料	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
シラカンパ樹液	50.0	-	50.0	-	-
p-フェノールスルホン酸亜鉛	1.0	-	-	1.0	-
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
評価	引き締め感がない(名)	4	30	6	6
	引き締め感がある(名)	9	5	27	25
	引き締め感の持続性がある(名)	23	0	4	4

【0016】3. 制汗効果の測定

表3に示す実施例6及び比較例9～11の制汗剤を調製した。パネラー8名を用いて、この制汗剤を脇部にスプレーし発汗の程度、脇部の臭気を比較した。結果を表3

に示す。

【0017】

【表3】

	実施例	比較例 (%)		
	6	9	10	11
アルミニウムクロロヒドロキシクロライド	1.0	—	1.0	—
タルク	2.0	2.0	2.0	2.0
セスキオレイン酸ソルビタン	0.2	0.2	0.2	0.2
香料	0.1	0.1	0.1	0.1
ミリスチン酸イソプロピル	1.2	1.2	1.2	1.2
メチルポリシロキサン	0.3	0.3	0.3	0.3
エタノール	6.2	6.2	6.2	6.2
シラカンバ樹液	5.0	—	—	5.0
ジメチルエーテル	42.0	42.0	42.0	42.0
LPG	42.0	42.0	42.0	42.0
精製水	—	1.0	1.0	1.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0
発汗 (名)	未塗布部と同程度の発汗	0	5	2
	やや発汗を抑制	2	1	3
	顕著に発汗を抑制	4	0	1
臭気 (名)	未塗布部と同程度の臭気	0	5	1
	やや臭気を抑制	3	1	5
	顕著に臭気を抑制	3	0	0

【0018】表1、表2及び表3に示す結果から本発明 * 認できた。
 の皮膚収斂化粧料は汗や皮脂の分泌を抑制し、肌を引き 【0019】
 締める効果が認められ、又その効果が持続することが確*

実施例7 (化粧水)

成 分	配合量 (%)
ポリオキシエチレン (20 E. O.)	
オレイルエーテル	0.7
グリセリン	2.0
プロピレングリコール	3.0
クエン酸	0.1
エタノール	12.0
シラカンバ樹液	70.0
香料	0.1
パラフェニルスルホン酸亜鉛	0.3
精製水	残部
計	100.0

【0020】

実施例8 (パック)

成 分	配合量 (%)
1,3-ブチレングリコール	8.0
ポリエチレングリコール4000	2.0
グリセリン	12.0
ステアリン酸	2.0
エタノール	15.0
シラカンバ樹液	40.0
ポリビニルアルコール	10.0
スタウラン	0.5
d1-ピロリドンカルボン酸ナトリウム	0.5
カルボキシメチルセルロース	0.1

(5)

特開平9-291022

7	8
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油(40E. O.)	0.5
香料	0.2
アラントインクロルヒドロキシアルミニウム	0.5
精製水	残部
計	100.0

【0021】

実施例9(乳液)

成分	配合量(%)
プロピレングリコール	8.0
スクワラン	6.0
ワセリン	2.0
セタノール	0.5
シラカンバ樹液	40.0
ポリオキシエチレン(20E. O.)	
セチルエーテル	0.8
塩化亜鉛	0.4
エタノール	1.0
ステアリン酸	1.0
水酸化カリウム	0.2
パラオキシ安息香酸エチル	0.3
香料	0.2
精製水	残部
計	100.0

【0022】

実施例10(ヘアトニック)

成分	配合量(%)
ポリオキシエチレン(20E. O.)	
2-オクチルドデシルエーテル	1.0
1,3-ブチレングリコール	5.0
カラミン	0.5
グリセリン	0.5
シラカンバ樹液	30.0
エタノール	50.0
d-1-ピロリドンカルボン酸ナトリウム	1.0
ニコチン酸ベンジル	0.03
香料	0.6
パラオキシ安息香酸エチル	0.1
塩酸ピリドキシン	0.05
サリチル酸	0.1
精製水	残部
計	100.0

【0023】

実施例11(ドロ状パック)

成分	配合量(%)
アルミニウムヒドロキシクロライド	0.4
乾燥硫酸アルミニウムカリウム	0.2
シラカンバ樹液	20.0
カオリン	30.0
ベントナイト	15.0
プロピレングリコール	10.0

(6)

特開平9-291022

10

9	
グリセリン	5.0
パラオキシ安息香酸メチル	0.1
エタノール	15.0
精製水	残部
計	100.0

【0024】

実施例12 (エッセンス)	
成 分	配合量 (%)
塩化第二鉄	0.6
シラカンバ樹液	60.0
クエン酸ナトリウム	0.5
カルボキシメチルセルロース	1.0
パラオキシ安息香酸エチル	0.05
香料	0.05
ポリオキシエチレン (20) オレイルエーテル	0.3
エタノール	10.0
精製水	残部
計	100.0

【0025】

実施例13 (制汗剤)	
成 分	配合量 (%)
アルミニウムクロロヒドロキシクロライド	1.0
タルク	2.0
セスキオレイン酸ソルビタン	0.2
香料	0.1
ミリスチン酸イソプロピル	1.2
メチルポリシロキサン	0.3
エタノール	6.2
シラカンバ樹液	5.0
ジメチルエーテル	42.0
液化天然ガス	42.0
計	100.0

【0026】

【発明の効果】本発明のカバノキ科カバノキ属に属する植物の樹液及びアラントインクロロヒドロキシアルミニウム、アルミニウムヒドロキシクロライド、塩化亜鉛、塩化アルミニウム、塩化第二鉄、カラミン、乾燥硫*

* 酸アルミニウムカリウムおよびパラフェニルスルホン酸亜鉛より選ばれた少なくとも1種の成分とを配合した皮膚収斂化粧料は、長時間にわたり優れた収斂効果を有する。

フロントページの続き

(51) Int. Cl.

A61K 7/00
7/38

識別記号

庁内整理番号

FI

A61K 7/00
7/38

技術表示箇所

W